



元気とタイムリーな情報を提供する 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2024年04月22日 第1164号「週刊五十嵐レポート」

異次元の利益

3月31日付日経新聞、「直言」は東京エレクトロン社長のインタビュー。日経平均株価を4万円まで牽引した企業の1社(直近は3万7063円まで下落)。

生成AIや量子コンピュータの普及が起爆剤、世界のデータ通信量は年率26%増、2040年に現状の100倍を超える。爆発的な需要増加をにらみ、最先端品から成熟品まで様々な半導体の生産を計画している。

1980年代後半、日本の半導体は世界首位だったがその後弱体化した。日本はなぜ力を失ってしまったのか、との問いに、「半導体は技術革新が激しい。市場が大きく落ち込んだ時期、日本の総合家電メーカーは半導体分野への投資を削った。一方、海外企業はむしろ投資を強化した。1年でも投資を止めるとアドバンテージを失う。常に競争力を維持しておかなければならない」。

では国に依存せず、世界と戦える実力を身につけるため、企業は何をすべきか?「自分たちが価値を提供できる『強み』はどこにあるのか、について『見極める』ことが重要。東京エレクトロンは、『技術革新力』という特徴がある。半導体の主要4分野の製造工程で世界1位、悪くても2位の装置を多数持っている。主要顧客と技術のロードマップを共有し、4世代先、時間軸で10年先を見据えて技術開発を進めている。我が社は世の中にはない最先端の技術を開発している。失敗するのは挑戦した結果。失敗は次の成長につながる。大きな利益を創出することで、チャレンジできる機会を創り出していく」。

2023年3月期の有価証券報告書によると、売上高2兆2千億円、経常利益6250億円、従業員17,204人。1人当たり粗利益は57百万円、1人当たり経常利益36百万円。自己資本比率68.7%、無借金。研究開発、設備投資は自己資金。通常良いと言われている企業は、1人当たり粗利益は15~20百万円、1人当たり経常利益は2~10百万円。東京エレクトロンは異次元の収益力。

小さな会社が参考にできるところは、売上を追いかけるのではなく、「強み」を見つけ、それを伸ばす。そして特定の分野、地域などで一番を目指す。自社の価値(顧客から評価されている所)は何かを問い合わせ続ける。粗利の高い商品・サービスを開発する。(東京エレクトロンには多くの人材が集まるだろう)

ちょっと
気になる出来事

4月19日付日経新聞、「ヒットのクスリ」はスイス発のスポーツシューズ「On」の創業者のインタビュー。(「ON」に関しては、23年4月3日第1112号「ちょっと気になる出来事」に取り上げた)

創業者はトライアスロンの選手。既存のシューズに物足りなさを感じていた。そこで庭にあるゴムホースを輪切りにして、靴底に張り付けた。下からゴムが押されると反発し、スライド感が高まる不思議な感覚。

違う感覚のランニングシューズが生まれそうだと感じた。一方で競争の激しい市場で参入余地がない気がした。そこで「ナイキ」「プーマ」「アディダス」に商品化を持ちかけた。しかし大手スポーツメーカーの反応は芳しくなく、却下された。それなら、起業しようと。スタートアップの道のりは厳しい。友人に声をかけたら「やめたほうがいい」と言われた。

今ではニューヨーク証券取引所に上場。電車に乗っていると「On」のシューズを履いている人をよく見かけるようになった。高機能・高価格帯で勝負している。私のランニングシューズはナイキの「ペガサス」シリーズ。次は「On」にトライしてみようかな。



一口メモ
知識

屈伸

尺蠖(せきわく)の屈するは、もって信(の)びんとことを求むるなり。龍蛇(りゆうだ)の蟄(かく)るるは、もって身を存せんとなり。

「信」は伸びる。「尺蠖(せきわく)」は尺取虫(しゃくとりむし)のこと。尺取虫は身を屈めて伸びて前に進む。前に伸びるために身を屈める。

「龍蛇(りゆうだ)」の龍は潜龍(せんりゆう)。龍や蛇が地中に身を隠すのは、実を保ち、来るべき時の準備をするためである。

屈する、蟄(かく)るるは、エネルギーを溜めること。自分はまだ事足りないと、低く身を屈めれば、次に大きく伸びることができる。

「易經一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

株式会社五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051 東京都江戸川区北小岩6-21-5

Tel 03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 info@igarashireport.com

